

3

北九州

北九州市



その日、街が目覚める。

「エリア価値創造」をコンセプトに、成長と発展の可能性を提案し、地域に貢献することが、私たちの使命です。

新しい価値を創造する新日鉄都市開発



新日鉄都市開発の環境共生分譲マンション
リビオ東田ヴィルコート
LIVIO HIGASHIDA VILLE COURT

全国初 環境省の「街区まるごとCO220%削減事業」に採択。

北九州市八幡東区東田 スペースワールドそば

モデルルーム公開中!!



株式会社 新日鉄都市開発 九州支店

〒805-0071 福岡県北九州市八幡東区東田1丁目5番3号(北九州テレコムセンター2号館) TEL:(093)661-3811 FAX:(093)671-3572 http://www.nscp-net.com/

青雲／白雲

読むか、飛ぶか。

*「雲のうえ」1号に続き、2号も良いですね。題字が良い。脱力感のある雰囲気が良い。淡々とした力みのない文章と写真。絵が庶民の気品を感じさせて良い。結果として行政らしからぬ個人誌の透明感が行間からにじむ。こういうケレン味の無い冊子は貴重ですので、継続されることを望みます。(糟屋郡・会社員)

*どうして大山市役所に置いてあったのかわかりませんが、とにかく1号、2号を入手しました。面白かったです。(愛知県大山市・59歳)

*「おーい、市場！」市井の人たちが自然な笑顔で登場しているのがいすね。よくあるガイド本よりよほど街の魅力が伝わってくる感じがしました。鯨を食べてみたい！(東京都調布市・32歳会社員)

*記事を読み、タイムスリップした気分になりました。且過市場や黄金市場は今も子どもたちの記憶とにもありますが、人間の活力を感じさせるあの独特の雰囲気をついまでも失わないでほしいと思っています。(東京都府中市・59歳会社員)

す。今は店の数も少ないですが、今度、カメラを持って訪ねてみます。(小倉北区・18歳学生)

↓48ページに続く

目次

雲のうえ

2

街のうた3／歩いて渡れ

文=大谷道子 絵=牧野伊三夫

4

特集

おとなの社会科見学

君は、工場を見たか。

新日本製鐵株式会社 八幡製鐵所
株式会社安川電機

TOTO本社 小倉第一工場

安田工業株式会社 八幡工場

シャボン玉石けん株式会社

株式会社村上精機工作所

有限会社鶴元製作所

遊生染織工房

山福印刷

北九州エコタウン

(株式会社ジェイ・リライツ、

西日本家電リサイクル株式会社、

九州工業大学エコタウン実証研究センター)

写真=久家靖秀 文=牧野伊三夫・大谷道子

38

おとなの見学手帖／工場リスト

文=大谷道子 写真=久家靖秀 絵=牧野伊三夫

44

連載 街と芝居と人と日々

劇場人。

第3回 宣伝ガールのお出迎え記録

毎日が出会いの日。

文・写真=山本美樹(北九州芸術劇場宣伝営業課)

『雲のうえ』3号

2007年4月25日発行

題字、表紙・目次の絵=牧野伊三夫

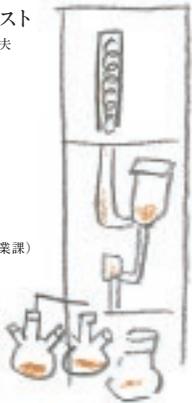
アートディレクション=有山達也

デザイン=有山達也+池田千草

編集=大谷道子 校正=藤森晋

©北九州市 2007

本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。



街のうた3 / 歩いて渡れ

学生るとき、夏休みや冬休みに帰省したりするじゃない。新幹線に乗って、関門海峡をくぐって小倉に出たとたん、ソープ街のざらざらしたネオンが目に入るわけ。あれを見るたび、ああやっぱり、って思ったんだ。

あたしはこんな街に、絶対、絶対帰らない。どん、とテールにグラスを打ちつけ、彼女は言った。夜11時を回っているのに、洞窟のような居酒屋の店内は人であふれかえり、奥のグループから時折けたたましい笑い声がかかる。今日も、何かあったのかもしれない。さわらぬ神に何とやら、と視線を外し、通りがかった店員におかわりを頼んだ。

高校を出て進学してから十数年。その間、数えるほどしか実家に帰っていないという彼女は、アパレルメーカーに勤務し、現在は直営店の経営に携わっている。自分で提案した商品のバイイングから販売まで守備範囲は幅広く、多くのスタッフを抱えての仕事はストレスが大きい。が、愚痴と悪態の限りを尽くしても、最後はひとりで膝を払ってすつくと立ち上がる人だということが、ここ数年の付き合いいでわかってきた。

でもまあ、海は、よかったかな。何ていうか、風が抜ける感じ。運ばれてきたグラスの

中、浮かんでは消える泡を見ながらぼつりとつぶやいたその言葉に、ふと、春先に訪れた海峡の潮風が蘇った。

市外の人にはあまり知られていないことだが、関門海峡は歩いて渡れる。九州と本州の境は、徒歩で越えられるのだ。新幹線や車ではあつという間のその道程を、一度は体感してみようという好奇心のみをポケットに入れて出かけたのは、まだ春浅い、乾いた北風が沁みる日だった。

徒歩用の通路「人道」は地下道で、門司港の先にある、正月神事で知られる和布刈神社の脇、まさに九州の最北端が北九州側の入り口となっている。関門橋の真下に車を停め、歩き出す。早い潮の流れの向こうに、驚くほどくつきりと対岸の街が浮かんでいる。思っていたよりもずっと、本州は近い。

何度もウェブ検索をかけてやっと出てきた情報を頼りに進むと、簡素な建物と、関門トンネル人道入り口と表示された看板が現れた。頑丈そうなエレベーターに乗り、海面下約60メートルの地下へと降りる。扉が開き、蛍光灯に照らされたエレベーターホールのすぐ左手が、海底の泥の中に掘られた（海中に浮い

ているわけではない、というのも案内板を読んで知ったことだ）、全長780メートルの道のりのスタート地点である。

案内人がいるんだな、というのが第一印象だった。平日の午前中なのに、中央に向かってやや下方傾斜した右側通行の道には、それなりの人の姿がある。ペアルックでウォーキングをする壮年の夫婦、携帯と書類だけ持って仕事場へ移動しているらしいビジネスマン、スーパリーの買い物袋を提げた女性、などなど。旅行者よりも在住の人のほうが圧倒的に多いというのをもまた、意外だった。

人がふたりようやく並んで歩ける一本道を、まずは県境目指して下っていく。歩きはじめてすぐ、かなり本格的と見受けられるマラソンランナーが、向こうから走ってきた。すれ違ったと思ったら、彼はあつという間に折り返してきて、肩先をかすめてびゅん、と追い抜いていった。俊足だ。

緩やかな下り坂。上を走る車（人道の上は車道である）の通り過ぎる音が断続的に響く。いつかテレビでやっていった、母親の胎内に響く音に似ている。そういえば、この真上はかの壇ノ浦の古戦場。ごうごうとうねる低い響きは、悲運の波にさらわれた亡者の断末魔か……とはるかに思いをめぐらす暇もなく、早くも道の先に太い白線と県の名を記した表示が見えてきた。福岡県と山口県の境。ここま

でおよそ380メートル、わずか8分。
そうかなあ。俺なんか、五反田の駅前とか見てもたいしたことないな、小倉のほうがぜんぜん勝ってるなって思うけど。
そう言った同郷の男性をぎんと見据え、何、貴様！ とどすの利いた一声、彼女は放った。出会ってからはじめて聞いたお国言葉だ。びくんと肩をすくめ、あわてて目をそらした彼を、なおも押しつけるように睨んでいる。さすがは、鉄の街の娘。折れてもへしゃげて、鉄は鉄だ。
いつの間にか日付が変わっていた。あれだけ飲んだのに、いつもどおり、彼女はやや速足で地下鉄の駅へ降りていった。まだ冷たい夜気をもとせずに、前のめりに。見上げると、薄ぼんやりした藍色の空にまんまるの月が浮いていた。明日は晴れるだろう。
半島を、いくつもの春が通り過ぎていく。娘たちよ、息子たちよ、自分の足で、自分の翼で海峡を渡れ。この土地を、海を忘れるな。いつの日か君が振り返ったときには、胸を張って、腕を広げていつでも迎えられる、そういう街でいるはずだから。
帰ってから、あの日撮った写真を2、3枚メールに添付して送った。返事はないが、達者の報せと受け取っている。

県境を越えると、残りは上り坂だ。トンネル内はおおむね、蛍光灯の青白い光で覆われているのに、道の数箇所だけなぜかブラックライトに照らされており、そこに差しかかると壁に描かれたくらげの絵がぼうつと浮かぶ。折り返してきた先ほどのランナーが、またしても一陣の風を残してすり抜けていった。その余韻を受けながら、言葉もなくなただ歩く。

このまんまじゃ、終われないもん。いつかの冬、やはり酒場で、当時所属していた事業部の閉鎖でへしゃげた釘のようになっていた彼女がいた。悲観的なくつつかの言葉を吐きながらも、逃げたくない、と何度も繰り返しした薄い唇を、今も覚えている。あれから何年になるのだろう。

あつけなく下関に着いた。出迎えるのは、昔のテレビドラマの扮装をしたイラストの松田優作。おそらく門司と同じ仕様のエレベーターに乗って、地上に出る。明るい。知らず知らずのうちに握り締めていた拳を、ゆつくりと開く。冷たい空気が流れ込んでくる。

今ぞ知るみもすそ川の御ながれ
波の下にもみやこありとは

国道の先には小さな公園が整備されており、八艘跳びの義経と錨をかついだ平知盛のまだ新しい銅像が据えてあった。ポラントピアに



よる哀切な壇ノ浦絵巻の紙芝居を聞き、潮風を胸いっぱいのためにためて、また地下へ戻る。

来た道をゆつくり戻りはじめると、あのランナーが相変わらず走っていた。シャツにうっすらと汗が滲んでいるが、表情は変わらない。彼も孤独だろうか。規則正しい呼吸のリズムが、近づいてきては追い抜き、向かってきては通り過ぎるのを何度か繰り返すうち、門司へ着いた。

地上に出ると、ぽかんと抜けた空と海、そ

おとなの社会科見学

君は、工場を見たか。

空を見よ。煙突からたなびく煙。

地を見渡せ。はるかに聳える鋼鉄の城。

大きなものも小さなものも、硬いものもやわらかいものも、

目に見えるものも形のないものも、

皆すべて人の手で作られ、変わらぬにそうあるのだと知る。

昔も、今も、工場こそが街のアイデンティティ。

社会科見学は子どもの特権？ とんでもない。

大人になった今だからこそ訪れたい、北九州・ものづくりの現場。

仕事が好きか。生きているか。

行けば、触れれば、人生、変わるぞ。

再訪の日。

新日本製鐵株式會社
八幡製鐵所



熱延工場内。1200℃に熱された延板状の鋼片(スラブ)が、計10台の圧延機を通過し、最終的に1.2～25mmの鋼板となってコイルに巻き取られていく。その間の温度コントロールが品質を決めるポイント。輻射熱と水蒸気が充満する中、鉄が荒々しい産声を上げる。

大音響とともに、真っ赤に焼けた鉄の塊が現れたとき、思わず涙ぐんだ。

小倉に生まれ育った僕は、小学生の折、学校の社会科見学で新日鐵へ行っただことがある。

当時、あの硬い鉄が溶けるといことが信じられず、工場で真っ赤になってアメのように形を変えている様子に釘づけになった。巨大なまぼこ板のような、赤く焼けた鉄が、ローラーの上をガタガタと走り、みるみるうちに薄っぺらい鉄板になって、ものすごいスピードで巻き取られていく。家に帰り、弟と二人で「製鉄所をやるう」と、粘土をかまぼこ板状にして、上から牛乳瓶を転がしながら薄くして遊んだことを覚えている。

2月半ば、30数年ぶりに新日鐵へ行くことになった。薄い鉄板を作っているところは熱延工場と呼ばれ、当時と同じく見学コースが設けられていた。

子どものころ、誰でも一度は社会科見学として、大人が働く現場へ出かけ

たことがあるだろう。

その街の基幹産業たる大工場だったり、伝統工芸品を作りつづけている小さな工房だったり、行き先はいろいろだが、目的は同じく「働く人を見て、社会の仕組みを知る」こと。けれど本当は、こうやって作っているんだな、大変そうだな、面白いなと思いつつ、それを通して、自分の街が何でできているのか、誰が作っているのかを知り、故郷への親愛を育て、深めることだったのではないかと、今にして思う。

あのころ手にした社会科の教科書には「鉄は国家なり」と書かれていた。しかしそれも、すでに歴史のページを飾るコピーとして知った言葉だ。製鉄所のある街で育たなかった身にとって、溶鉱炉や煙突、そこで成し遂げられた偉大な仕事は遠い世界の話で、それこそ写真や映像で断片的に知る以外の知識を持つことはなかった。ほとんどの人にとってそうだろう。明治34年

に操業を開始し、日本の近代化を支えた官営八幡製鐵所。その膝元の街で生まれ育った人以外には。

その産業史の舞台に今、足を踏み入れようとしている。若戸大橋を降りた先に広がる新日鐵八幡製鐵所の広大な敷地。立ちのびるゲートの様子は一見すると、ひとつの独立国家の入り口のようなだ。

説明を受け、見学者用のヘルメットとジャケットを身につけてゲートをくぐる。中へ入るとまず「ご安全に」という看板の大きな文字が目飛び込んできた。工場内で挨拶に使われる言葉だと聞いた。

見せてもらうのは、自動車用などに使われる鋼板を作る熱延工場と、その原料を作る高炉と呼ばれる溶鉱炉。いったいどんなところなのか。何が行われているのか。車が進むにつれ、敷地内の想像以上の重装備ぶりを目の当たりにし、しげんと緊張が高まる。エレメ

ントとエレメントの融合。流れ出る溶銑。熱。これまで、市内のあちこちから眺めてきた煙突が、今日はすぐ近くに聳えている。

工場前に着く。定かでもなく、足元から、取り巻く空気の振動から、何か凄まじいことが奥で行われていることは感じ取れる。

扉が開かれる。とたんに、熱気と音のバイブレーションに包まれる。そして階段を上り、目の前に広がった光景。それから先に見たものについては、恥ずかしいけれど、いまだにただ、この言葉でしか形容できない。

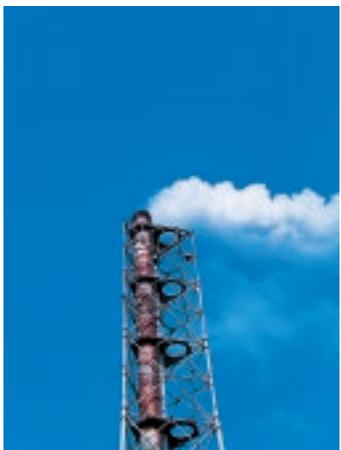
すごい！

周囲の人の声がまったく聞こえなくなるほどの大音響とともに、真っ赤に焼けた鉄の塊が目の前に現れたとき、思わず僕は涙ぐんだ。

巨大なロールの間を歩き来しながら、叫び声のような軋みの音を立てて、鉄はみるみる薄く、長く延ばされていく。工場内の様子は、小学生のころに見たときとほとんど変わっていない。しかしどうしたことだろう。大人になって

見たときのほうが、はるかに感動が大きかったのである。

確かに、大人になると涙腺がゆるくなるものだが、これは決して懐かしさのためではない。すぐそこに大量の鉄が焼けているという、そのあまりの素朴な姿に触れて、なんとも予測できない、すがすがしい喜びの感情がこみ



上げてきたからだ。

そしてこの驚きは、火山から溶岩が溶け出すという大自然の営みを目にしたときとは違う種類の驚きである。人間がこのような設備を作って、鉄を原始の姿にしているということに、あらためて感心しているのだ。

以前、種子島でロケットの打ち上げに立ち会った友人が、どういうわけか、

炎が見えて空へ飛び立った瞬間、その場にいた人は涙を流すのだと言っていたのを思い出した。

焼けた鉄に、土砂降りの雨のごとく水が浴びせられると、立ちのぼる雲のように水蒸気が湧き立つ。工場の高い屋根の下で、何度も何度も火と水が激しくぶつかり合うさまを、飽きもせず眺めていた。それは、粘土で製鉄所遊びをしたころとは、またひと味違った感慨だった。

残響と輻射熱の冷めやらぬまま、熱延工場を出て車に乗り込む。

広い広い工場内、移動の手段に車は不可欠だ。ヘルメットをかぶったまま自転車に乗って仕事を移動している人の姿も見える。大きな蛸の足のような巨大なパイプの下をいくつもいくつもくぐり、ついに製鐵所の心臓部、高炉にたどり着いた。

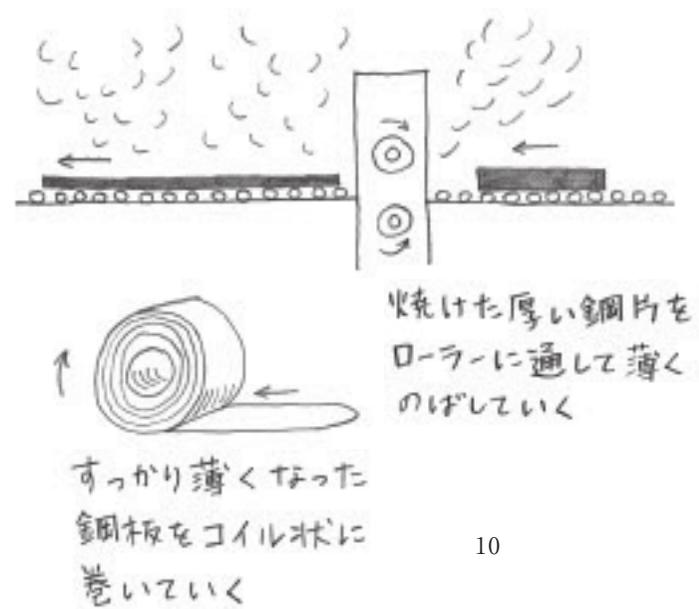
人知の限りを尽くした鉄の要塞が、1世紀あまりの時間が醸した重厚な鎧をまとってそこにあった。高さおよそ100メートル。その頂上、近くのバルコニー状の場所には、よく見ると作業

右／コイル状の鋼板は冷延工場内に保管され、出荷を待つ。設置・移動は人が制御するクレーンで行う。左／戸畑第4高炉前。高炉のある戸畑地区と糸鋼工場のある八幡地区は「くろがね線」という専用鉄道で結ばれており、日に十数回、貨車が往復している。



影は絶え間なく、大きく動く。
 高炉入り口に、魚雷のような形のタンクを取りつけた貨車がいくつも待機していた。トピードカーと呼ばれるそれは、高炉で溶かされたマグマ状の鉄を、熱延にかける前の製鋼工程に運ぶための専用の車だ。魚雷形のタンクの上部が開いていて、今は空の状態なのに、先に入れられた鉄の残り熱が陽炎のようにゆらゆらと立ち上っている。1500℃の余韻は、そう簡単には消え去らないのだ。ものからも、人の記憶からも。
 あのころ、確かに社会科の教科書には「鉄は国家なり」と書いてあった。今は、どうだろうか。子どもたちがめくっているページには「経済は国の柱」「ITが世界を制す」と書いてあったりするのだろうか？
 トピードカーが1台、高炉の入り口に向かってゆっくりと動き出した。暗闇の先に、真っ赤な熱が波打っている。言葉もなく、後を見守る。その間も煙の影は絶え間なく流れつづけていて、見上げると雲もまた、青空を悠々と、大きく動いていた。

中の人の姿がある。あそこから地上を見渡すと、いったいどんな心持ちがするものだろうか。想像がつかない。
 想像がつかないといえば、先に熱延工場で見えた工程もだ。現在はオートメーション化されているが、あれのどこを昔、人力で行っていたというのだろうか。まったく、想像がつかない。足元の地面を、いくつもの影が通り過ぎる。雲かと思ったが、それは煙突からたなびく煙が陽の光を受けて作る影だった。





知らなかった。

株式会社安川電機 TOTO本社 小倉第一工場 安田工業株式会社 八幡工場

突然ですが、トイレの便器が食器などと同じ陶器であること、意識したことありますか？ 釘が「鉄を固めて作る」ものではないこと、産業用ロボットの多くが「腕だけ」であること、ご存じでしたか？

ロボットって顔がついてないんですねとつぶやいた瞬間、同行のスタッフから注がれた白い目を、今も忘れない。そうですとも。知らなかったんですとも。ロボットには顔がなく、足もなく、腕だけだったことを。たぶん、この世の大人と呼ばれる人の何割かはそうに違う（と信じる）。

産業用ロボットの最大手・安川電機。昭和モダンの空気漂う杜屋の奥で、最新鋭のロボット製造が行われている。「MOTOMAN」と命名されたこの工場製のロボットは、世界中の自動車

工場などで日夜、文字どおり「腕」を振っているのだ。

パーツを運ぶ。設置する。接着剤を塗り、据えつける。力と細かい手作業を必要とする作業を、彼らは黙々と行っていた。頑丈な腕、背筋を伸ばした立ち姿。その機敏かつ正確無比な動作に、思わず息を呑む。

上端には眼のような役割を果たすCDカメラが取りつけられており、作業が間違いなく行われているかどうかを自分で確認し、点検もする。あの腕でコピートをとってくれたら。肩を揉んでくれたら、とつい思う。

フロアの一部には、ロボットとロボットが協働してロボットを作っている現場があった。2体のロボットは息の合った様子で、新しいロボットの土台をリズミカルに組み立てている。阿

畔の呼吸の、まさに見本だ。

隣にいる画家も、じつと作業に入っている。ロボットたちが仕事の手順を間違えるんじゃないかと心配で、と言う。腕だけでそんな思いを抱かせる「生きている」ロボットたちの前で、人間たちはただ立ちすくむ。

人間の便や尿を受け止めている便器は、純然たる「陶芸品」なのだと思った。実際、フランスの芸術家マルセル・デュシャンは、レディメイドの工芸品の典型として便器をそのまま美術館に展示していた。確かに、よく見ると、洋式便器は白く艶のある機能的な曲線美をそなえている。見れば見るほど摩訶不思議だ。

TOTOの工場に入ると、まだ成形されたばかりの便器が並んでいた。土色をしてひっくり返った便器は、イルカの群れの彫刻作品のようにも見える。ここでは年間50万個も便器を作っているらしい。そんなに数作るのだから、一度に型で作って次々と焼いているのだろうと思っていた。が、そうではなかった。

便器は、上からだとわかりにくい、水の通り道のところはくねくねと曲がり、入り組んだ複雑な形をしているのである。この部分も、そして滑らかな便器のポウル部分もまた、一つひとつ、パーツを人の手で接着して作られる。

パーツの継ぎ目に接着用の土を塗り、一つずつスポンジで撫でて丁寧仕上げていく。実に細かな作業だ。よく見ると、じゃがいもの皮むき器、針金、鉛筆なども使われている。特殊な道具ではなくて、自分が使いやすい道具を用いるという。まさに陶芸そのものだ。「陶芸だと、少しくらいゆがんでもいい。でも私たちが作るものは、絶対にゆがんではいけない」

この道40年の大ベテランの職人は言う。そうだ。これほど大量に、正確な陶芸品を作れるというのは驚くべきことだと、あらためて思う。帰りにトイレをお借りしたら、最新式の便器に、少量の水がくるくる回りながら静かに流れた。我が家のものよりかなり上等である。これまでになく敬意を払って用を足したことは言うまでもない。

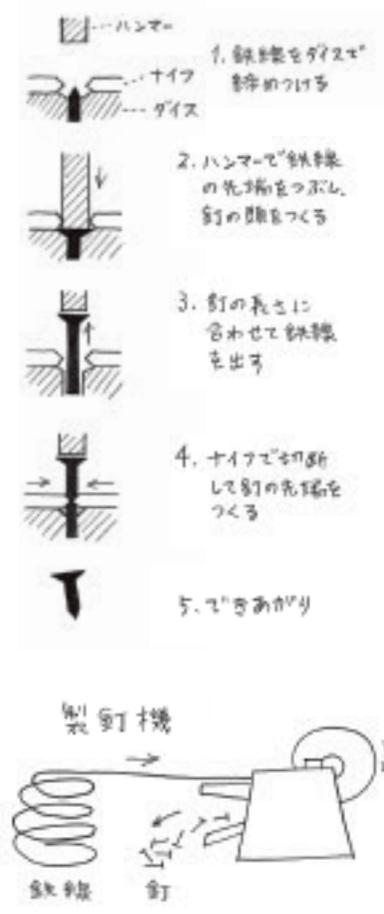


左 / 「MOTOMAN」組み立て風景。土台など大きな部分はロボットが行うが、細部の組み立ては人の手による部分が多い。右上下 / 事務所も、そして社員食堂もまたものづくりの最前線。それぞれの仕事を確実に、正確に積み重ねて、日々がある。



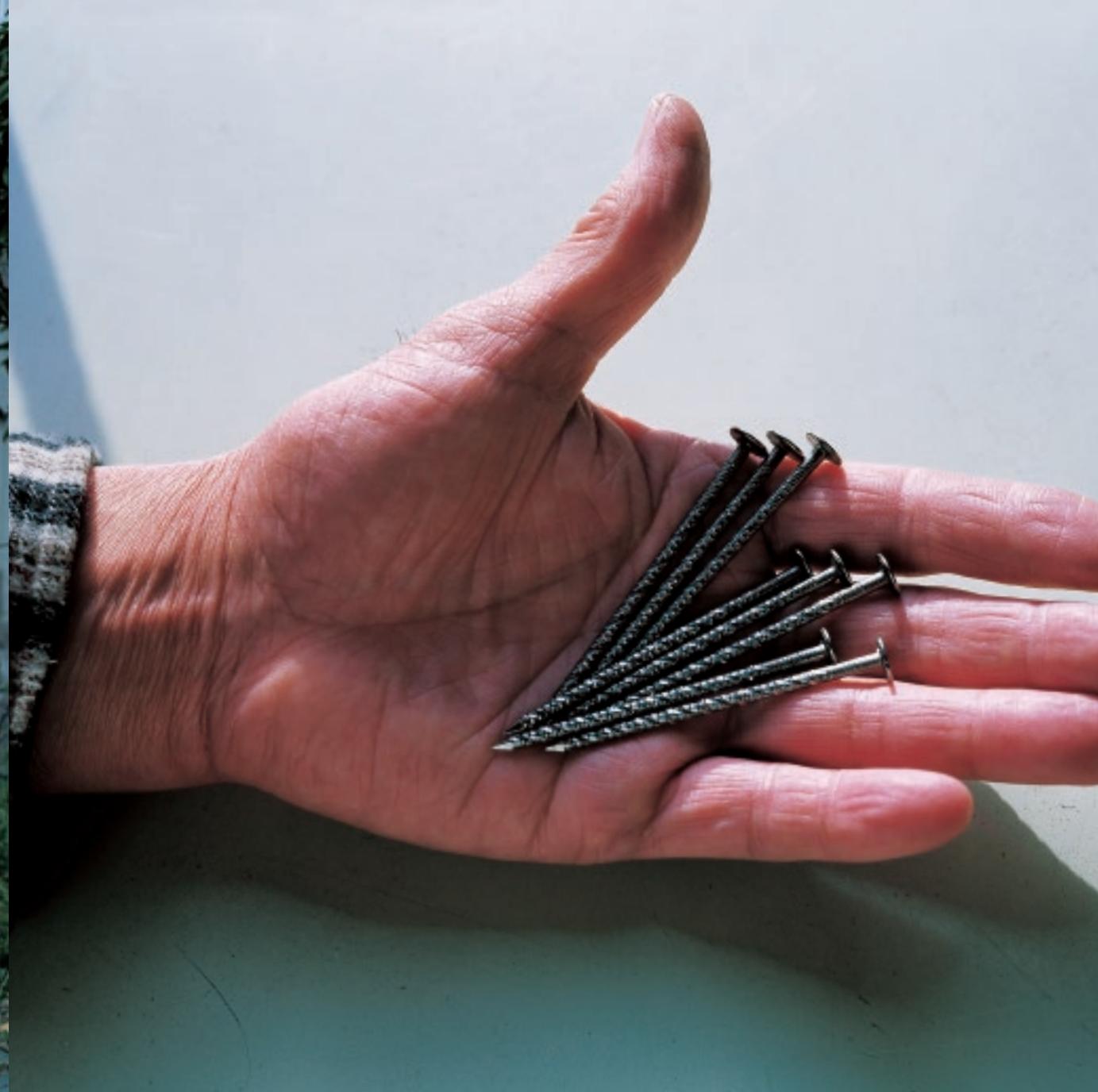
安田工業工場内。機械1台につき、
毎分600本あまりの釘が途切れること
なく生産されていく。大正時代からほと
んど変わらないという光景に、時を忘
れて恍惚となる。往時は、木の樽に
詰められた釘が、毎日山のようにここ
から出荷されていったという。

黙々と働くロボットの姿。
便器の、釘の生み出されるところ。
思うよりずっと世界は広く、
そして深い。





右／生まれたての釘は、まだほんのり温かく、しっとりと艶を帯びていた。左／「たかが釘かもしれませんが、やはり歴史のあるものですから」と、工場長・荒木信仁さん。歴史の風格をたたえた煉瓦造の工場入り口で、事務担当の小野かおりさんと。





右／全長115メートルのトンネル窯。TOTO製のさまざまな製品が24時間かけて焼成される。左／今も昔も変わらず手成形。作業する人の手に手袋はなく、不良の原因になる油分など不純物がつくのを防ぐため、ハンドクリームすら使用しないという。

翌日、安田工業の釘工場へ行った。小さいものをこしらえているのだから、八幡の工場地帯の片隅にぼつんとある小さな建物を想像していたが、実物はぜんぜん違った。

野球場よりはるかに広大な敷地に立つ、ウイスキー貯蔵庫のような欧風の風情のある煉瓦造の建物。この建物は、東京駅などを設計した明治、大正期の建築家・辰野金吾氏の作で、彼が国内で手がけた唯一の工場建築だという。

工場内に入ると、ダダダダダダダダ、とけたたましい音。ぐるぐる巻かれた針金がものすごい速さで吸い込まれ、マシンガンのような機械から次々釘が飛び出してくる。針金とマシンガンのセットがはるか向こうまで並ぶ光景は、ロシアの映画『戦艦ポチョムキン』を彷彿とさせる。

ダダダダダダダダ。その音は「日本中の大工がいつせいに釘を打ってもかまわんぞ。わしらにまかしとけ」という声のようだ。ダダダダダダダダ。ほかの音が何も聞こえないほどの騒音であるが、なぜか不思議な心地よさを感じていた。

このごろ、街中にあふれる「ピロロリー」「ピッピッ」といった電子音や、「カードフォトリワスレナク、カードヲ……」などの電子声を打ち消すような響き。あのいやったらしい音に病んだ感覚を健康に戻してくれるような、素朴で力強い音ではないか。

ダダダダダダダダ。眼前でただただ針金が釘へと変身しつづける、その単調さがまた心地よかった。

切り出され、飛び出していく銀色の釘。すべすべした便器のリムを優しく形作る手。ロボットの眼のカメラに宿る、小さな強い光。

いい大人、と呼ばれる年齢まで生きてきて、つい、世の中の大概のことはわかったような気になっていた。しかし、知ったかぶりをしていただけで、本当は何も知らなかったのだ。思うよりずっと世界は広く、そして深い。帰り道、車窓から眺める空には、今日もきれいな夕陽が浮かんでいる。今も煙を上げているどこかの工場のシルエットを眺めながら、ずいぶんぼんやり生きてきたもんだ、と嘆息した。



人が働く。

シャボン玉石けん株式会社
株式会社村上精機工作所
有限会社鶴元製作所

シャボン玉石けんにて。左／ケン化釜内部。食用にできるほどの良質で新鮮な原料を、1週間かけてじっくりと炊いていく。右／石けん生地を包丁ですくい上げ、刃の上の滑りで品質を確かめる。家庭用包丁を使うのは「昔からそうしているから」とのこと。

絶え間なく動く機械に、寄り添う人がいる。
それぞれが五感を使い、協力し合って働く、その確かさ。

無添加石けんで全国的に有名なシャボン玉石けんの工場を訪ねた。

無添加という言葉は、無農薬、オーガニックなどと並んで宣伝文句として近頃いささか手垢にまみれた感があるが、この工場は30年以上も前から無添加石けん一本でやっている草分けだ。僕の友人のN君はこの石けんのファンで、髪の毛から足の先まで全部洗っているという。

いったいどういうものなのだろう。そもそも、石けんがどう作られているのかまったく知らない。なぜ油污れが落とせるのに、泡が水に溶けるのか。食品ではないのに無添加とはいかに。ああ、わからない。工場に一步入ると、穀物のようなうまそうな香りがした。中央に大きな釜がいくつもあり、中にクリームシチューのようなどろどろした液体が煮えている。



る。これが石けんのもとなのだ。

「ケン化法といっています、ここで牛脂やヤシ油と苛性ソーダを反応させるわけです。つまり、わかりやすく言いますと、油分が男、ソーダが女としま

したら、それが数日かけてゆつくりなじんで……」。説明を受けたが、やっぱり何のことやらわからない。ただ、原材料から製法に至るまで、すべて自然そのものであることを原則としてい

塗装場の排気設備、キャスター付きのフレーム、大小さまざまな作業テーブルなど、工場内のもはほとんど使い勝手に合わせて手作りしたもの。必要な道具を自分たちの手で生み出せるのも、ものづくりの現場ならではの強みである。鶴元製作所で。

るのは、肌で感じる事ができた。

なにしろ、人が作っているのである。釜炊き職人と呼ばれる人が、製造中の石けん生地を釜から包丁ですくい取って見せてくれた。職人はこれを舌先で舐め、出来上りを確認するという。よくできた石けん生地はとがった刺激がなく、甘い感じがするらしい。不思議だ。相変わらずよく理解できなかったが、目と鼻で現場を確かめた喜びが確かにあった。

工場内の売店で購入した石けんで髪を洗ってみると、あの釜の中の液体と同じ匂いがした。

工場っていうのは、ラインなんだな。ファインダーから目を離し、写真家が言う。そう。そのとおり。原料は融合し、熟成され、成形されて製品となる。製品はコンベアの上を流れ、その過程に人が立ち会い、必要な手をかけていく。機械化されていても、プログラミ

ングするのは人だ。絶え間なく動く機械と、寄り添う人。

振動モーターの国内最大手、村上精機工作所の工場内を歩く。案内に沿って歩くと、部品が溶接され、組み立てられ、塗装され、製品が出来上がっていく様子がよくわかる。そして工程ごとに確認し、補助する人の手がある。

あるラインには、勤続40年以上のベテラン。別のラインには、技術を学びに来日したアジアからの実習生。先輩技術者が後輩に実地で指導している場面も見かけた。皆、目が合うと、挨拶とともに笑顔を向ける。最終コーナーでは、吊りバネにぶら下げられた製品がいくつも並んで振動していた。振動モーターのテストは、モーター自身を振動させて行われる。そこにもやはり、見守る人の姿があった。

「毎日必ず現場に出て、皆の顔を見ます。表情や、挨拶の様子から気になることがあると声をかけて、様子を聞いたりします」。ときには恋愛相談を持ちかけられることもある橋本尚二社長。温かな大家族の長である。

うまいもんやん。溶接作業中にカメ



右／村上精機工作所内に今も残る、手作業のスペース。熟練工が多く、親子2代で勤める人も珍しくない。左／2カ月に1回、決められた課題図書に社員が感想文を寄せ、社長が手書きのコメントを返す。日常業務を超えたコミュニケーションがここにある。

ラを向けられ、照れる従業員に社長が声をかける。すると、うまいこといったかどうか、とこれまた爽快な笑顔が返ってきた。メタリックな現場に、温かな血の通う一瞬。

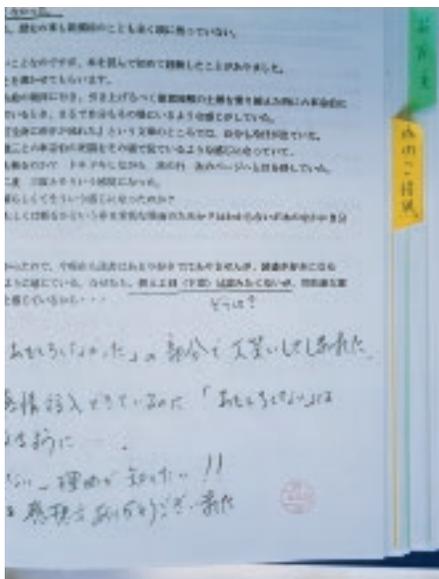
結局、人間がいちばん確かですから。社長はそう言い、また前を歩き出した。モーターは遠くで、一列に並んでずっと元気に揺れていた。

.....

小倉南区の周防灘に面した曾根新田の辺りは、僕が幼いころは田んぼだらけだった。海岸の干潟ではカブトガニが獲れたものだが、最近はず宅や大型店が立ち並んでいる。

そんな場所にあるのが鶴元製作所だ。社員21名のこの会社は、建物の天井に取りつけ

る換気・排煙・採光装置の生産で西日本一のシェアを持っている。整理整頓された工場の中には、きびきび働く女性の姿もあり、活き活きとした雰囲気だ。しかしこうなるまでには、専務・鶴元清一郎さんによる、会社運営についての大胆で潔い見直しがあった。



13年前、父が経営するこの会社に入社したとき、バブル崩壊のあおりで経営はどん底の状態。社員はほとんどが男性で、工場の床には器具や煙草の吸い殻が散乱していたという。

「考えたんですよ。我々の得意なもの、他に負けないというものは何かと。そ

して換気装置を作ろうと決め、あとは全員で一丸となって」

さらに、小規模や中規模の事業所では人手不足も依然、深刻だ。

「うちでは、子育てをしている女性も現場で働いている。彼女たちは子どもを送り迎えや家事があり、決まった

時間に出勤するのがなかなか難しい。

だから製品の納期だけは守れるようにチームで話し合ってもらい、フレック

スで働けるようにしたんです」

女性が増えたことで、職場はずいぶんきれいになったそうだ。

そしてこの会社では、仕事の改善についての社員たちからのアイデアを募集し、実行している。

棚にカーテンを取りつけて埃を少なくする工夫、不安定な作業台の脚を補強する工夫、ボルトの締めりをよくする工夫、などなど。ささいなことから技術上の提案まで、一つひとつにつき会社から200円の報酬があり、会議にかけて有益と認定されたものには、賞金も出る。アイデア賞2万円。工場長賞5万円。専務賞10万円。社長賞は上限なし。

「専務賞までは出たんですが、社長賞はまだですね」

窓の外には、昔ながらののどかな風景が広がっている。こんな中で、皆で協力し合って働いている姿をうらやましく思った。いつか社長賞が出たら、ぜひ報せてほしい。

かつて文豪森鷗外は、北九州小倉で過ごした足かけ4年の間に数多くの「伝記小説」を執筆しました。その「伝記小説」で取り上げた無名の人物たちの生き方は、時代を超えて多くの人々に深い感銘を与えています。北九州市自分史文学賞は、その「伝記小説」にちなみ、平成2年に創設されました。以来、毎年国内外の幅広い年齢層の方々から、多くの応募をいただいています。家庭、職場、学校での、あなただけの貴重な体験や、身近な人の思い出を、一つの作品にしてみませんか。たくさんのご応募を心よりお待ちしております。

◆**募集内容** 体験を中心に自らのあり方を綴ったもの、又は、自分自身に大きな影響や感銘を与えた人物（肉親、恩師など）の生き方を描いたもの。日本語で書かれたノンフィクション、自作、未発表の作品に限ります。出版社等が作成を手伝ったものは該当しません。「クラブ活動や子育て体験、ボランティア体験」、「ご自身の半生、闘病記や結婚・出産など人生の節目となる出来事」、「その後の生き方を決定づけることになった数日間のこと」など、テーマはなんでも結構です。

◆**審査委員** 柴田翔 岩橋邦枝 佐木隆三

◆**応募様式** A4判(210mm×297mm)縦書きで、頁数を入れてください。手書きの場合、400字詰め原稿用紙200枚から250枚まで。ワープロの場合、横白紙の40字×30行で66枚から84枚まで。

◆**応募資格** 特にありません。

◆**募集期間** 平成19年7月1日から
平成19年9月30日まで（当日消印有効）

森鷗外 記念事業

北九州市自分史文学賞 作品募集

第8回

【大賞】
賞金 **200万円**
（単行本発刊予定）

●佳作 賞金各50万円
●北九州市特別賞 賞金30万円

◆募集要項を下記までご請求ください。

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1 北九州市経済文化局文化振興課内
「自分史文学賞」係 TEL093-582-2391 FAX093-582-2677
<http://www.city.kitakyushu.jp/page/jibunshi/>

旅の疲れを癒してくれる
ひとクラス上の
くつろぎの空間——。

ビジネス・観光の拠点に

HOTEL
GUIDE

北九州・ホテルガイド

スペースワールドに隣接するシティリゾートホテル

JR鹿児島本線枝光駅から徒歩8分、北九州市高速枝光ランプから2分の好立地。サウナ付大浴場も設置。朝食はバイキング。夕食は和食・中国・フランス料理・鉄板焼の各レストランがオススメ。



北九州八幡ロイヤルホテル

ビジネス・プライベートの拠点に最適!
全294室の広々とした空間でおくつろぎください。
無料大駐車場完備(276台)
問合/〒805-0002 北九州市八幡東区枝光1-1-1
TEL/093(662)1055(予約専用)

旅館的でまごころのこもったサービスでおもてなし

ビジネスなみの「価格」で本格的な「和朝食」を楽しむことから、同ホテルを定宿とするビジネスパーソンも多い。JR小倉駅からわずか7分という好立地に加えて、車利用のゲストには無料駐車場80台を提供している。



松柏園ホテル

料金/お一人様 **8,610円**(1泊朝食付)
問合/〒802-0022 北九州市小倉北区上富野4-1-25
TEL/093(511)2228

おいしい料理とくつろぎの空間で上質な時を

JR鹿児島本線八幡駅より徒歩10分、スペースワールドも近く好立地。館内には現代美術が展示され、懐石料理、割烹、フレンチレストランなど旬の素材を使った食事処が多彩に揃う創業66年の老舗ホテル。



千草ホテル

部屋/シングル・ダブル・ツイン・スイート・和室
料金/お一人様 **8,875円**~(シングルレ・1泊朝食付)
問合/〒805-0061 北九州市八幡東区西本町1-1-1
TEL/093(671)1131 FAX 0120-228-133
HP/ <http://www.chigusa.co.jp>

小倉の迎賓館・伝統ある老舗ホテル。

小倉の繁華街に位置し七〇〇坪にわたる日本庭園が広がる和の佇まいと新しいヨーロッパの薫り漂うホテル。ご宿泊・レストラン・宴会・婚礼など全てに上質感漂う感動の空間をお届けいたします。



ホテルニュータガワ

ご宿泊料金/ **13,000円**~
(各季節プランもご用意しております。)
お問合せ/〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町3-46
TEL/093(521)7000 HP/ www.hotel-newtagawa.co.jp

北九州空港エアポートバスがホテル横に停車で便利

JR鹿児島本線黒崎駅から西鉄バスで6分(現在大人百円)。特急や快速の停車駅なので、スペースワールドや門司港レトロの観光をはじめ、小倉や博多へのアクセスに便利。旧長崎街道に隣接し、閑静さとやすらぎのホテル。



ホテル クラウンパレス 北九州

平成19年2月26日に開業!!
レストラン・バーラウンジも充実!!
料金/お一人様 **7,900円**~(1泊朝食付)
問合/〒806-8585 北九州市八幡西区東曲里町3-1
TEL/093(631)1111

九州の玄関口。関門海峡を望む高層コミュニティーホテル。

地上30階建て、小倉のランドマークとしてそびえる北九州一の高層シティホテル。北九州空港をご利用の際は、お得なエアードライブプランがお薦め。上質なサービスと全室30㎡以上の洗練された快適空間でゆとりのホテルライフを。



リーガロイヤルホテル小倉

(JR小倉駅北口より徒歩1分)
問合/〒802-0001 北九州市小倉北区浅野2-14-2
TEL/093(531)1121(代表)
HP/ <http://www.rihga-kokura.co.jp>
料金/エアープラン sgl ¥11,000~/twn ¥20,000~(1泊朝食付)

右／開業時は作業のほとんどがガリ版印刷だった。電算写植に移ってから、緑さんは毎日モニター画面に向かって。左／絵本『ひとくわぼり』は700部限定で制作。版画は一枚一枚手刷りのものを貼付してある。山福印刷には栄光の「零番」が。



この街の仕事。
遊生染織工房
山福印刷

古い小説などで、織物を示して「小倉」とか「小倉袴」という言葉が出てくると、郷里の小倉ではなく「小倉あん」や「小倉百人一首」のほうの小倉であろうと思っていた。築城則子さんの小倉織工房を訪ねるまで、恥ずかしなはずとどだ。小倉が織物で有名だったとは想像もできなかった。

そういえば、僕が通った小倉の高校は旧制中学から続く古い歴史を持った学校だが、毎年春と夏に霜降の灰色の制服を着せられた。あれは昔、本物の小倉織だったのだ。地味で古風な制服で、当時はあまり気に入っていなかったが、急に誇らしい気分になった。

「縞は簡単で、経糸緯糸を複雑に組み合わせた表現のほうが難しいと言人もある。だけど、私は縞の無限が好きですね」

工房の壁には、隣の山口県の画家・松田正平氏の「犬馬難魁魅易」という書が掛けられている。現実からかけ離れた空想の生き物を絵に描くのは簡単だが、身近な犬や馬などを描くのは難しい、という意味の言葉である。緯糸の存在を消すようにして、経糸だけで

織り上げていく小倉織にこだわりのつづける築城さんは、「この言葉を聞いたとき、ああ、そうだなあと考えた。縞の中に、汲めども尽きぬ未知なるものを感じるんです」と言う。

植物で染めた糸の色を組み合わせて、縞のデザインを決めていく。デザインのイメージはどんなときに浮かぶのかと訊ねると、「チェロの音だとか、風の音……自然界のいろいろな音色から」と築城さんは答えた。かっこいいことを言うなあ。伝統工芸の中に、欧米の現代音楽のような感覚を見る。

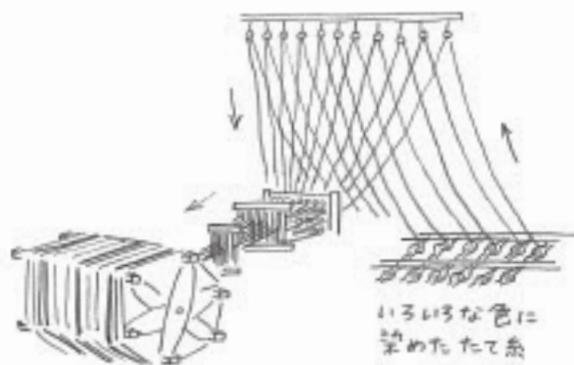
工房の入り口に停めてある黒塗りのミニクーパーの座席にも、小倉織の縞の布がかぶせてあった。小倉織は昔から丈夫だという評判だが、こうして耐久性を試しているのだそうだ。和洋折衷の車内の装いがなんとも絶妙な味わいで、僕は本家イギリスのタータンチェックよりずっと好ましいと思った。

若松に、北九州の風物を描いた『付録』という名の本を自費出版された印刷所があるというので訪ねた。

今は亡き創業者の山福康政さんが身

近な人や風俗について手描きで文章を書き絵を添えて作った、北九州では伝説のように語られている本だ。その印刷所はまた「裏山書房」という出版社でもあるらしい。隣町筑豊で『追われゆく坑夫たち』などの著書を遺し、炭鉱の記録文学者として名高い上野英信氏も、ここへ足しげく通ったという。

電話で伺った番地へ行ってみたが、それらしい看板が見当たらない。車で周囲をぐるぐる廻って、ようやく住宅地の細い路地に発見することができた。知らない人は、おそらく決してたどり着けないだろう。来る人を拒むかのような佇まいにしばし緊張したのだが、玄関に現れた康政さんの奥様の緑さんとご長男で現社長の康生さんは、実に飾らない慎み深い人たちで、その笑顔にほっとした。



整経台
ここで、もう布地のたて経のデザインが決定している

決して画料は請求しなかったという。そして「裏山書房」の名は「この裏に高塔山があるから」つけられたのだそう。

「上野先生は大変な酒豪でいらして、ここで主人を相手によく飲んでいらっしやいました。主人はお酒が飲めませんで、お湯にほんの数滴焼酎をたらし、それで酔っぱらうんです。いろいろな話題があつたようですが、何の話をしていったのか……」

あのころは仕事が楽しかった、と緑さん。一方で僕はふと、康政さんの生き方に家族はしぶん苦労されたのではないかと心配した。ところが後を引き継いだ康生さんも、父と同じく無償で絵を描いているという。

「縞は私にとって最初の形であり、最終の型」と言う築城さん。儲けることよりもっと愉快な生き方があるのだと語りかけてくる山福さんの仕事。僕はこのお二方の頑固な感覚に北九州人としての親しみを感じ、またものづくりへのしたたかな魂を見せつけられたのだった。

頑固な感覚。したたかな魂。
この街のものづくりの真髄。

左／整経（せいけい）と呼ばれる、経糸を準備する作業。「布の出来はここにかかっているから、集中する」と築城さん。大きな楽器を調律しているような風景だ。右／作品「玲鈴（れいれい）」は、鈴の鳴る音をイメージして織り上げられたもの。

未来の岸辺で。

株式会社ジェイ・リライツ

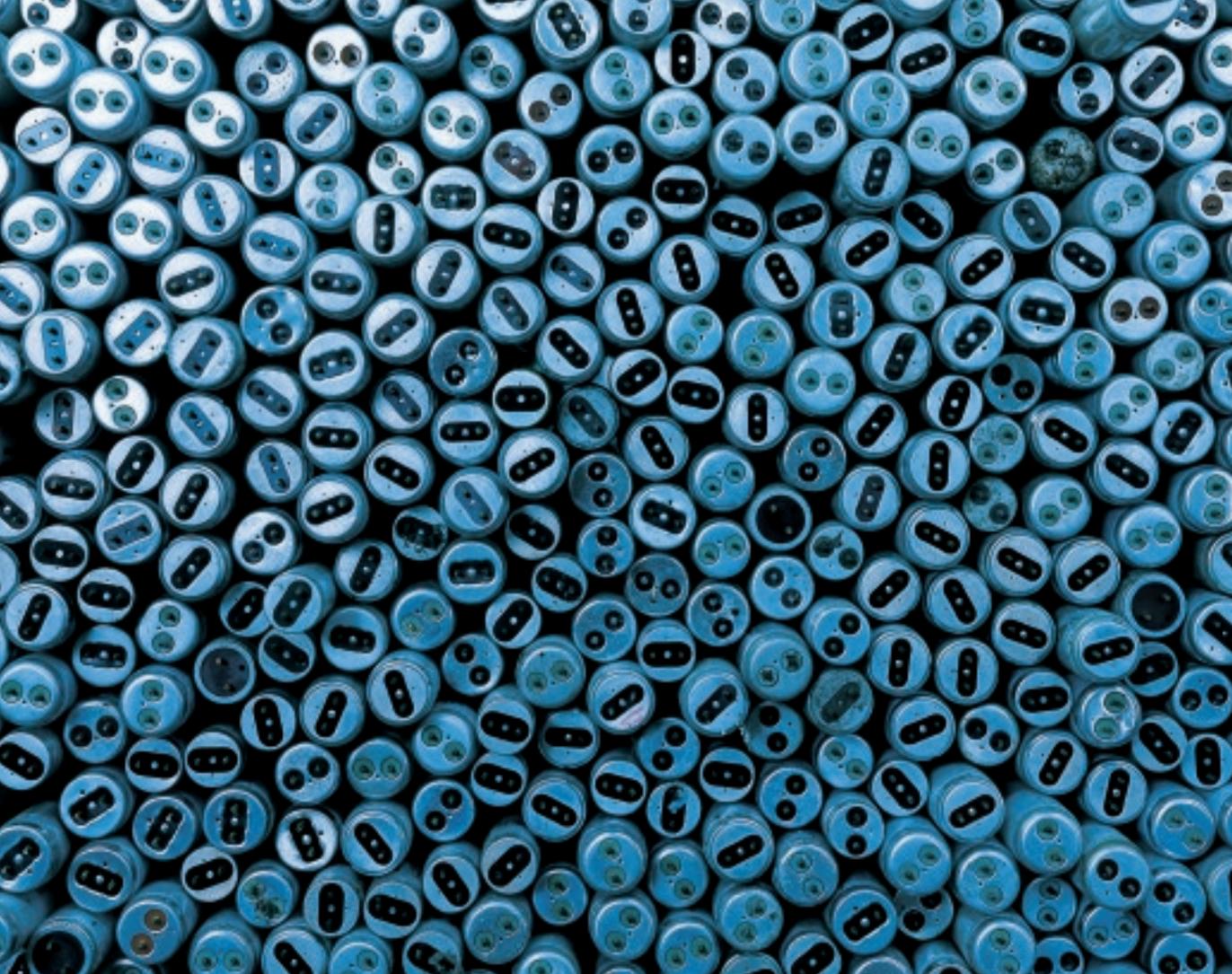
西日本家電リサイクル株式会社

九州工業大学エコタウン実証研究センター

(北九州エコタウン内)



左／蛍光管は、同じようできて一つひとつ違う。なんとなく人の集団を想起させる。右／丸管は直管よりもリサイクルが難しいのが現状。ジェイ・リライツでは可能な限り「ランプ to ランプ」(蛍光管から蛍光管へ)のリサイクルを進めているという。



僕がまだ小学生のころ、若松の二島にあった母の実家から祖父母に連れられ、よく脇田の浜へ行った。海岸へ下る坂道で、バスの窓から真つ青な海が見えると歓声を上げたものだ。もちろん水着持参。祖父は手製の水中眼鏡と鉛を持って海中に入り、ウニやアワビの獲り方を教えてくれた。

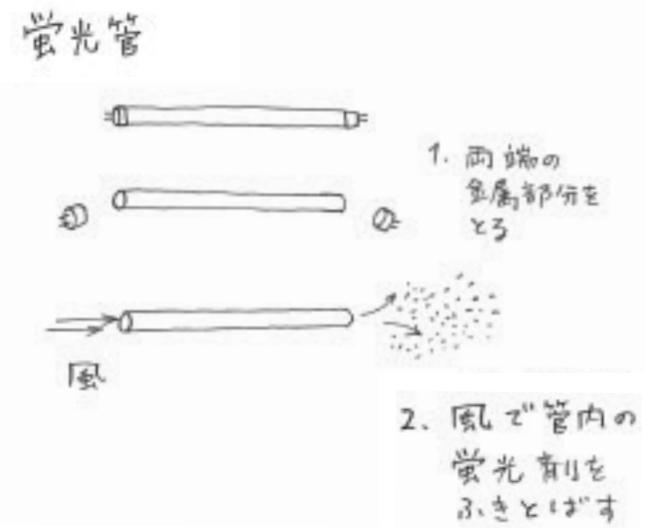
あるとき、海岸に火力発電所ができ、その浜は消えた。祖父が鉛を持ったまま、高い煙突を見上げていたのを覚えている。やがて次々と埋め立てられ、現在の海岸線はかつてよりもずっと沖にある。海上の彼方にあった藍島が、今はすぐ目の前だ。

長いようであつたという間だった社会科見学の旅。最終目的地のエコタウンは、まさにこの海岸の埋立地にあつた。自然環境を保護するために、ゴミを再利用する施設を作る。しかし、そのために巨大な自然を破壊しなければならぬ。このパラドックスに、いったい僕ははどう向き合ふべきなのだろうか？

はじめに訪れたのは、蛍光管リサイクルの工場である。処理過程を見せてもらった。機械の中にゆるゆると蛍光

管が入っていくと、両端の口金を取り除かれ、続いてガラス管の中の蛍光体と呼ばれる白い粉が風で吹き飛ばされ、透明のガラス管になる。ずっと白色のガラスだと思っていたのに。その後、それぞれ破碎され、ガラスや鉄や蛍光体は原料へ還っていく。

大変だなあ、と思ったのは、機械に入れるまでの、回収した蛍光管を分別する作業である。すべて人の手で行われるのだ。背丈ほどある長い管を紙





西日本家電リサイクルの現場から。工場の繁忙期は、新製品の発売時期、春夏のいわゆる「買い替え時期」と重なる。分解は細部になればなるほど手作業で行われ、結果、4製品平均で74.3%という、全国的にも高いリサイクル率を実現している。

ケースから抜き取ったり、塗装などを削り取ったりしてサイズごとにまとめ、棚に積んでいく。捨てる人がここまでの作業をしていたらどんなに効率がいいだろう、と思わずにはいられない。

また、メーカーが新しい規格の蛍光管を作った場合、再生するシステムも一から考え直しとなる。作って売る人、使う人、再生する人が一緒に考えないと、僕らは永遠にあのパッドックスから抜け出せないのだろう。

全国にいくつかある同様の施設のなかで、碎いた蛍光管から再び蛍光管を作っているのはここ1社のみだという。再生された蛍光管の光はやわらかく、より太陽の光に近いようだと思った。

.....

およそこの世の中にあるどんなに便利なものも、どんなに愛され、頼りにされたものも、永遠には存在しない。生み出された以上、ものはいつか壊れて役目を終えるときが来る。あなた自身の生命が永遠でないのと同じように。洗濯機。冷蔵庫。エアコン。テレビ。もはや生活から切り離せない家電たちの、最期の姿がそこにあった。西日本

家電リサイクルの工場には、毎日何千台もの使用済み家電製品が集まってく。家族の団欒の場で使われていた、思い出をまとったものたち。けれど、ものはいつか壊れる。そして、壊れた先の姿を、使っているとき、人は考えもしない。

数台ずつクレーンで運ばれてきた洗濯機や冷蔵庫が、どんどん分解されていく。ホースやドラム、操作盤やドアポケットが、原始的な手作業でばらばらになっていく。手前には、テレビのブラウン管を処理するラインがあった。枠を外され、裸になったブラウン管があるゾーンで一瞬、炎のようなオレンジ色の光に包まれる。パネルガラスを外す工程のその光には、どこか終末的な色合いがあった。乾いた破壊音がこだまする。

壁に「分ければ資源 混ぜれば廃棄物」という標語が掲げられていた。ものは壊れる。けれど終わりではない。工場の奥では、丁寧に分別、粉砕され、洗浄された鉄やプラスチック



が、静かに再資源化の時を待っていた。これからまた、新たな旅が始まるのだ。.....

海岸を歩いていると、漂着したプラスチック

スティックのゴミを見ることがある。現在広く使用されているポリプロピレン製のプラスチックは、自然に戻るのに1000年かかるらしい。ところがこ

の九州工業大学の研究センターで作られるプラスチックはわずか1年で土に還るのだそうだ。そしてなんと、生ゴミからプラスチックを製造する実験を行っている！ いったい、何がどうなっ

てそうなるのだろうか。

生ゴミをミンチにして発酵させ、糖化液を作る。その糖化液をさらに乳酸発酵させて濃縮させると.....質問すればするほど、さらにわからなくなる。

隣で一緒に聞いている編集者も、ペンを握りしめたまま目の焦点が合っていない。さっぱり理解できないが、とにかく生ゴミから、ポリ乳酸というプラスチックのものができるのだ。

しかも、ポリプロピレン製のプラスチックが再生を繰り返すたびに劣化するのに対し、ポリ乳酸プラスチックは質が変わらないらしい。一度作ったら何度でも永久に使うことができるのだ。これもあのパッドックスから抜け出せる可能性を秘めた、実はすごいものなのかもしれない、と期待を持った。

.....

見ておいてよかった。これまで、本当にたくさんの方で創造と誕生の現

未来の環境を保護するために、
目の前の環境を犠牲にしている。
この事実には、僕らはどう向き合うか？

生ゴミはビニールなどの異物を取り除き、タンパク質、炭水化物、野菜類をブレンド。その後、約4週間の工程を経てポリ乳酸樹脂（右）に生まれ変わる。左/リサイクル推進には「子どものころからの環境教育が決め手」と九工大研究員・安田信彦さん。



場を見てきたからこそ、そう思った。

壊れてなくなってしまうのに、人はものを作ることをやめない。なぜか？ たぶん、それが生きるといふことなのだと思う。人は、有形無形に関わらず、誰かの役に立つものを作って生きている。まるでそうすることで、自分の存在を確認するかのよう。だから、どんなに空しくてもそれをやめない。

巨額の電子マネーが宙を飛び交い、見えない相手との情報戦に鎬を削る世界になっても、いや、だからこそ、人は手の中の重みとぬくもりをかみしめなくなる。人ひとりが生み出すもの、その重さは、釘一本から鋼鉄のロールまで、おそろしく等しく同じだ。

創造も、破壊も、そして再生をも担う人の集合体である工場は、仕事について、人生について考える格好の場所だった。生きるために誰もが働く。あなたがその手で、あなたの生きる世界を愛する方法。それが、仕事なのだ。

.....
エコタウンを訪れてあらためて思いを馳せたのは、ここで再生処理されるために集められた膨大なゴミを、これ

まで海や山に埋めていたという事実である。そうまでして地上で生きようとしている、そういう人間であることが恥ずかしくなる。ものを作るなら、不要になった後のことを考えるべきだ。こんな言い方で恐縮だが、自分の尻は自分で拭くようにやく自然の一員になれるのではないか、と思った。

この街は、明治時代に官営製鐵所ができて以来100年以上、工業都市として歩んできた。子どものころは、洞海湾に架かった赤い若戸大橋が東洋一の橋だと聞いて、どうしてそんな橋が東京や大阪ではなくてここにあるのかと不思議に思った。街の特徴など考えたこともない。ただ、いろいろな工場があるな、と思っていただけである。

今、大人になって多少、産業だとか地域文化、あるいは自然環境などという言葉の意味がわかるようになった。まだほんの一部であるが、今回の見学を終えてみて、この歴史ある工業都市に育まれてきたものが何であるかをはじめで知ったように思う。工場は、僕自身を映し出した。ぜひ一度ここへ来て、この街の底力に触れてほしい。



P20-25

シャボン玉石けん株式会社

若松区南二島 2-23-1
☎ 093-791-4800(お客様相談室)
http://www.shabon.com/

1910(明治43)年に森田範次郎商店として開業。70年代以降、それまでの主力商品であった合成洗剤の製造を中止し、時間と手間をかけた旧来のケン化法による健康と環境に優しい無添加石けんを専門に製造。アトピーなど皮膚疾患に悩む人から環境問題に関心の高い層まで幅広く支持を受け、「シャボン玉友の会」による通信販売も行っている。工場見学には年間約1万人が来場。製造過程を見たのち商品を購入できる。

[見学概要]

日時=月～金(祝祭日を除く)9:30～12:00、13:00～16:00

対象=小学5年生以上の団体(5～300名)

予約=見学希望日の6カ月～2週間前までに電話にて申し込み



P20-25

株式会社 村上精機工作所

八幡西区洞北町1-1
☎ 093-601-1037
http://www.murakami-seiki.co.jp/

高性能振動発生装置「ユーラスバイブレータ」をはじめ、振動モーター分野で国内トップシェアを誇る創業61年の産業用電気機器の専門メーカー。その技術力は国内のみならず世界でも高く評価され、ダイヤモンドのデビアスグループなども顧客に名を連ねる。社長、役員を含む従業員105名間の親睦行事も盛んで、特集でも紹介した読書感想文による対話や社主催の英会話教室、ゴルフレッスンなどが随時催されている。

[見学概要]

日時=月～金(祝祭日を除く)9:30～11:30、13:30～15:30

対象=小学5年生以上の団体(5～20名)

予約=見学希望日の1カ月前までに電話にて申し込み



P20-25

有限会社 鶴元製作所

小倉南区新首根1-8
☎ 093-473-1922
http://www.tsurumoto.co.jp/

板金工事業からスタートし、現在は2代目の専務取締役・鶴元清一郎氏のもと、工場やショッピングセンターなど大型施設の換気・排煙・採光装置に特化した事業展開を進めている。「Small is Best」を合言葉に、社員一人ひとりがものづくりのスペシャリストとしての腕を磨きつつ、よりよい職場環境づくりに取り組む。事業で出る廃材を使って職人が手作りする、マスコットなどのオリジナルメタルグッズをウェブで販売中。

[見学概要]

日時=月～金(祝祭日を除く)9:30～11:30、13:30～15:30

対象=小学5年生以上の団体(5～20名)

予約=見学希望日の1カ月前までに電話にて申し込み



P12-19

TOTO本社 小倉第一工場

小倉北区中島2-1-1
☎ 093-951-2053
http://www.toto.co.jp/

日本にまだ下水道がなかった1917(大正6)年、筑豊炭田の燃料と天草の陶石という豊富な資源を背景に創業した「世界のTOTO」。以降、一貫して便器=衛生陶器を開発、進化させ、高機能かつ水量減など環境面に配慮した新製品を世に送り出している。海外展開も積極的に行い、トイレをくつろぎの空間と捉える日本独自の文化を発信。同じく市内にある小倉第二工場では水栓金具を生産しており、こちらも見学が可能。

[見学概要]

日時=月・火(祝祭日を除く)9:00～12:00、13:00～16:00

対象=中学生以上の団体(10～50名)

予約=見学希望日の3カ月～2週間前までに電話にて申し込み



P5-11

新日本製鐵株式会社 八幡製鐵所

戸畑区飛幡町1-1
☎ 093-872-6105(総務部庶務グループ工場見学受付窓口)
http://www.yawata.nsc.co.jp/

「金の王なる哉(かな)」とも読める旧字体の「鐵」の字を掲げる鉄鋼業界のトップメーカー。なかでも八幡製鐵所は官営八幡製鐵所以来、日本の近代産業の発展を鋼の腕力で牽引してきた歴史ある工場である。現在はおもに自動車用などの高級鋼板と、鉄道レール用の条鋼などを生産。また地の利を生かし、オリンピック開催を控えた中国などアジア各国および世界への拠点としての役割をも担う。高炉・圧延工場への見学は年間を通して実施され、毎年11月初旬に行われるまつり起業祭では条鋼工場も公開している。

[見学概要]

日時=月～金(祝祭日、11/18を除く)9:30～11:30、13:30～15:30

対象=小学5年生以上の、車で来られる5名以上の団体(上限はバス3台まで)

予約=見学希望日の1カ月前までに電話にて申し込み



おとなの見学手帖／工場リスト

仕事を見る。人を見る。そして自分の掌を見る。

文=大谷道子 写真=久家靖秀 絵=牧野伊三夫



P12-19

安田工業株式会社 八幡工場

八幡東区枝光2-7-7
☎ 093-662-6521
http://www.ysd-kk.co.jp/

東洋初の洋釘メーカーとして、安田財閥創始者・安田善次郎氏が1897(明治30)年に起業。以降の安田工業の社史は、日本の洋釘の歴史に重なる。1908年に当時の官営八幡製鐵所よりワイヤーロッドの供給を受け、4年後に八幡工場が操業開始。近年は耐震性に優れた、腐食やめり込み、引抜けに強い新製品の開発に注力している。辰野金吾氏設計の工場には、研究者や建築家、また建築を志す学生の見学者も多く訪れているという。

[見学概要]

見学は電話にて申し込みを受け、随時実施



P12-19

株式会社 安川電機

八幡西区黒崎城石2-1
☎ 093-645-8812(八幡西事業所総務課)
http://www.yaskawa.co.jp/

1915(大正4)年の創立以来、電動力を応用した産業のオートメーション化を行い、メカトロニクスの推進、そして産業用ロボット「モートマン」を開発。世界中の企業、工場を顧客に持ち、15万台以上の安川電機製のロボットが稼働している。1990年に開設されたモートマンセンタ(見学コースにもあり)には黄金に輝くモートマン初号機のほか、小倉の夏の風物詩・祇園太鼓を叩くロボットなども展示されている。

[見学概要]

日時=火～木(祝祭日、年末年始、GWを除く)9:00～12:00

対象=小学5年生以上の団体(10～50名)

予約=見学希望日の3カ月～10日前までに電話にて申し込み





東京(羽田)ー北九州 早朝から深夜まで1日11往復

空港からJR小倉駅まで35分。 北九州空港のアクセスが変わる。



JR小倉駅ノンストップバス誕生記念! **対象者全員に!**
選べる特典キャンペーン

2007年4月20日~2007年6月30日ご出発分(4月28日~5月6日をのぞく)



北九州空港 <-> JR小倉駅
便利なノンストップバスが誕生しました!

1日20往復新設され、合計36往復!

羽田をAM発で*1、往復共にスターフライヤーをご利用いただく方に
3つの特典の内いずれかひとつをプレゼント!

**選べる
特典 1**

往復無料!

**北九州空港発着の
エアポートバス往復無料券**

**選べる
特典 2**

¥ 1,000 割引!

**乗り合いタクシー *2
¥ 1,000 割引券**

**選べる
特典 3**

¥ 1,000 分お買い物!

**空の丘 *3 クーポン券
¥ 1,000 分**

*1 一部AM発でない便も含まれます。下記対象条件をご確認ください。
*2 早朝・深夜便にも対応した、北九州発着のタクシーです。詳しくはホームページをご覧ください。
*3 北九州空港内に出店する売店です。ここでしか手に入らないスターフライヤーグッズも販売しております。

ご利用方法



1 スターフライヤー
ホームページより
申込書を出力



2 必要事項を記入し
ご搭乗日に
羽田空港へ持参



3 スターフライヤーカウンター
にて「申込書」と「航空券」を
提示し、特典を選ぶ



4 北九州空港にて
ご利用ください

下記全てに該当する方が対象となります

- キャンペーン期間中、羽田発往路 73・75・77・79 便を利用し、往復便のスターフライヤーチケットをご購入の方。(全日空便でのご利用の方は対象外となります。)
- 当社マイレージ制度「STAR LINK MEMBERS」(入会金・年会費無料)のご会員の方(「STAR LINK MEMBERS」は、スターフライヤーホームページより、お申し込みいただけます。ホームページからのお申し込みの場合は、カードお届けまで1週間ほどかかります。またはご搭乗当日空港でもお申し込みいただけます。)
- 「大人普通運賃」「小児運賃」「往復運賃」「スター-Q 割」「STAR1」「STAR7」「4、6 回数券」「株主優待券」「身体障害者割引」「介護割引」「スター学割」「スターシニア」のいずれかの航空券をご利用の方。

■ご予約・ご購入・キャンペーンのお問い合わせはー

SF CALL CENTER 050-2015-1489

(営業時間/7:00~21:00)

www.starflyer.jp

(携帯電話からもアクセスできます)



P28-31 山福印刷

若松区西園町 13-4
☎ 093-761-3870

北九州への愛情あふれるイラストエッセイを数多く遺した故・山福康政氏が開業。版元「裏山書房」としても、増田連氏の『杉田久女ノート』、上野英信氏・千田梅二氏による『ひとつくわぼり』など、数々の伝説の名著を世に送り出した。往時、工場兼自宅には地域の文化人が数多く集い、文化論に花を咲かせていたとのこと。現在は小学校の文集や俳句結社などの印刷物の製作など、地元で根ざした仕事を行う。工場は非公開。



P28-31 遊生染織工房

八幡東区猪倉町 5-8
☎ 093-651-4517
<http://www.tsuikinoriko.com/>

染織家・築城則子氏が主宰。豊前小倉を発祥の地とし、江戸期には武士の袴地、帯地として、明治期以降昭和前期には学生服の生地にも使われていた丈夫でしなやかな木綿織物。昭和初期にはいったん途絶えたが、1984年に復元され、まっすぐな堅織から醸し出される質実剛健さと美しさが再評価されている。工房は原則として非公開。手織、機械織の小倉織の布製品は、小倉北区にある店舗「布アネックス」で販売されている。



P32-37 北九州エコタウン

若松区向洋町 10-20
☎ 093-752-2881 (エコタウンセンター)
<http://www.kitaq-ecotown.com/>

「あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、最終的に廃棄物をゼロにすること(=ゼロ・エミッション)」を目指し、資源循環型社会の構築を図るエコタウン事業。北九州市では、1997(平成9)年に全国に先駆けて国の地域承認を受け、さまざまな事業に取り組んでいる。現在は25の事業所が稼働し、総合環境コンビナートに属する株式会社ジェイ・リライツと西日本家電リサイクル株式会社はそれぞれ専門品目のリサイクル事業を推進。また実証研究エリアにある九州工業大学エコタウン実証研究センターでは、バイオマスプラスチックを中心とした次世代製品の研究、開発が行われている。見学はエコタウンセンターが窓口となっており、スケジュールはウェブサイトで公開している。
[見学概要]
日時=月~金(祝祭日を除く)午前または午後
対象=個人・団体(各回100名定員)
予約=見学希望日の2週間前までに電話にてエコタウンセンターに申し込み

株式会社ジェイ・リライツ

若松区響町 1-62-17
☎ 093-752-2386
<http://www.j-relights.co.jp/>

西日本家電リサイクル株式会社

若松区響町 1-62
☎ 093-752-2424
<http://www.nkrc.co.jp/>

九州工業大学 エコタウン実証研究センター

若松区向洋町 10-1
☎ 093-751-2811
<http://www.life.kyutech.ac.jp/~shirai/>(白井研究室)
<http://kitaq-eco.net/home.htm>
(NPO法人 北九州エコ・サポーターズ)



『産業観光ガイドブック』好評配布中

近代日本の発展を牽引したものづくりの街・北九州市。市内には数々の産業遺産や、新しい未来への扉を開く事業所があります。このような産業の現場を巡る旅が「産業観光」です。北九州市観光課では、この産業観光について広く知っていただくためのガイドブックを作成しています。北九州市観光課および北九州市観光協会のウェブサイトからダウンロードできます。

北九州市観光課 〒 803-8501 小倉北区内1番1号
☎ 093-582-2054
<http://www.city.kitakyushu.jp/page/kankou/>
北九州市観光協会 <http://www.kcta.or.jp/>

※紹介した各企業・工場のデータは、2007年3月取材時点のものです。

紙面一新!



朝日新聞はますます
読みやすく面白く。

朝の1分、ニュースがわかる。
大型インデックス登場!!

2面▶「きょうがわかる」
3面▶「あしたを考える」



暮らしや経済への影響を探る「政策面」誕生
日替わりメニューも充実、役立つ「生活面」

◎火曜「わが家のミカタ」 ◎水曜「おいしさ発見」 ◎木曜「備える」
◎金曜「働く」 ◎土曜「子ども」 ◎日曜「医療」



情報たっぷり、「教育面」「科学面」「文化面」



週末に4つの「be」が勢ぞろい!
青の「be」ビジネス 緑の「be」不思議いっぱい
赤の「be」エンターテインメント 金の「be」まるごとテレビ面

かわる、わかる 朝日新聞

■ご購入のお申し込みは 朝日が サンサン オハヨーサン
フリーコール 0120-33-0843



譲渡価額
800万円
台より(1画地)



自然・交通・買物、充実した環境が揃いました。
学研都市「ひびきの」宅地分譲

建築条件なし
住宅メーカーの指定はありません
5年以内に
建築いただければOKです
先着順受付中!

■譲渡価額(即金の場合): 8,702,260円(1画地)~13,404,245円(1画地)
■画地面積: 203.79㎡(61.64坪・1画地)~257.55㎡(77.90坪・1画地)
■最多価額帯: 1,300万円台(3画地) ■1㎡当たり単価: 42,700円~52,700円

【全体概要】●事業名称/北九州市計画土地区画整理事業 北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業 ●施行者/独立行政法人都市再生機構 ●所在地/北九州市若松区・八幡西区 ●開発面積/約121.4ha ●換地処分公告/平成18年6月23日(福岡県告示第1205号) ●計画戸数/1,060戸(予定) ●計画人口/約3,500人 ●私道負担面積/なし ●道路/都市計画道路及び区画道路(幅員4m~40m) ●上水道/北九州市営水道 ●下水道/北九州市公共下水道 ●電気/九州電力(株) ●ガス/西部瓦斯(株) ●土地区画整理事業認可/平成8年2月27日(建設省告示第281号)
【物件概要】●所在地/北九州市若松区塩屋3丁目7-109他 ●交通/JR鹿児島本線「折尾」駅より市営バス「ひびきの東」バス停下車徒歩約1分他 ●画地数/9画地(平成19年3月15日現在) ●地目/宅地 ●用途地域/第1種低層住居専用地域 ●建ぺい率/40% ●容積率/60% ●外壁面後退距離/1.0m以上(敷地境界線より外壁面が1.0m以上後退した部分に住宅を建てる制限) ●高さ制限/10m以下 ●広告有効期限/平成19年5月末日
※この広告は平成19年3月15日現在の状況で、変動する場合があります。

UR宅地販売センター ☎093(692)3026
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-6 営業時間/10:00~16:30 定休日/水曜日

九州支社 業務管理チーム ☎092(722)1114
〒810-8610 福岡市中央区長浜二丁目2-4 営業時間/9:15~17:40 定休日/土曜日・日曜日・祝日

街に、ルネッサンス
UR 都市機構
独立行政法人都市再生機構 (旧都市公団)

©詳しい情報はインターネットで24時間ご覧いただけます www.ur-net.go.jp/kyuoki

街と
人と
日々

劇場人。

演劇の未来を創り出す街・北九州。劇的空間を担うのは、舞台に上る人だけじゃない。お客さま一人ひとりをあたたく迎えるスタッフがいるからこそ、今日も幕が上がります。

第③回

宣伝ガールのお出迎え記録

毎日が出会いの日。

文・写真 山本美樹（北九州芸術劇場宣伝営業課）



↑やまもと・みき／北九州生まれの北九州育ち。短大卒業後、広告代理店を経て2004年より現職。広告物制作のほか、チケット販売、公演日には窓口でのお客さま対応に携わる。見晴らしのいいオフィスの窓から工場の煙突を眺めつつの昼ごはんタイムがお気に入り。



●2月17日（土）
今日は、GWに上演される蛭川幸雄氏演出の舞台『恋の骨折り損』のチケットクラブ会員先行予約日。

この作品は、男性俳優のみで上演されるシェイクスピアの人気恋愛喜劇。北村一輝さん、姜暢雄さん、窪塚俊介さんなど美しい俳優さんたちが男役も女役も演じてしまう楽しい作品。10時の開始から鳴りつばなしの電話の対応に明け暮れる。

好評につき先行の予定枚数を終了！オペレーターのみなさんご苦労さまでした！

●2月22日（木）

ブロードウェイ・ミュージカル『スウィーニー・トッド』フリート街の悪魔の理髪師〜初日。昨年夏の制作発表時には「まだまだ先のこと」と思っていたのに……。

公演当日の仕事は、表周りの対応や休憩中の案内、終演後のお見送りなどいろいろ



*1 『恋の骨折り損』:
作=W・シェイクスピア 演出=蛭川幸雄
出演=北村一輝、姜暢雄、窪塚俊介ほか/
'07年5月4・5日 北九州芸術劇場 大ホール/
問い合わせ:北九州芸術劇場芸術文化
情報センター ☎093-562-2655

*2 チケットクラブ:
北九州芸術劇場が指定する主催公演チケットの先行予約や会報誌の発送(年4回)、協賛店サービスなどの特典あり。入会金500円、北九州芸術劇場プレイガイド(リパーク北九州5F)窓口で受け付け中。/
問い合わせ:北九州芸術劇場チケットクラブ ☎093-562-8435

ろ。開演の1時間半くらい前から、お客さまを迎える準備に取りかかり、1時間前には当日券販売も開始され、会場前がだんだんザワツいてきた！ いよいよ待望の北九州公演、開幕です。

●2月24日（土）

シテイボーイズミックスPRESENTS 『モーゴの人々』・山海塾 『時のなかのとき』
2作品のチケットクラブ会員先行予約日。『モーゴ』は10時から、『時のなか』は12時からと、時間差での受け付けだ。

先行予約が2つもあるうえに、今日は『スウィーニー・トッド』も昼・夜の2公演と大忙しの日。昼公演終演後、すぐに夜公演のお客さまを迎える準備でバタバタでした。

●2月25日（日）

『恋の骨折り損』の一般発売日。寒い中、たくさんの方がチケットを求めてプレイガイドに列をつくってくれていた。さて今日は『スウィーニー・トッド』の千秋楽！ここ北九州が、全国ツアーの最終公演地。今までも本場にすばらしい舞台だった今回の公演には撮影が入る。北九州公演がDVD化されるのは、なんだかうれしい。

仕事のあと、観に来てくれた友だちと食事へ。一人で観るお芝居もすごくいい。でもこうやって、観たお芝居について誰かと話すのもまた楽しい。

●3月3日（土）

ひな祭り。祝うこともなくなってきた今日のごろ……。『地獄八景：浮世百景』制作会社のG2プロデュースさんより差し入れをいただいた。心配りがうれしい♪ G2さんは、6月に上演する舞台『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』の演出を手がける。今から楽しみ！

●3月4日（日）

『地獄八景：浮世百景』もついに千秋楽。北九州でも連日大盛り上がり。カーテンコールでは、またしても特別バージョンのピンクの花吹雪がひらひらと舞い、知られずにいたキャストのみなさんも感激の様子。キャスト全員の舞台挨拶もあり、やっぱりひと味違うな。チケットを入手するのも難しいけど、こんなサプライズのある千秋楽はオススメです！

お客さん一人ひとりが思い思いのオシャレをして、観劇の日を楽しみに劇場に来てくれる。そんなお客さんの笑顔を見ると、劇場で働いていてよかったなとしみじみ思う今日のごろ……。平成18年度の公演も残りわずか。19年度も頑張ろう！



©Sankai Juku

*4 山海塾『時のなかのとき』:
北九州芸術劇場・バリエ市立劇場・山海塾共同プロデュース作品(朝日舞台芸術賞グランプリ受賞記念)/演出・振付・デザイン=天児牛大/舞踏手=天児牛大、蟬丸、岩下徹ほか/07年4月28日 北九州芸術劇場 中劇場



●2月26日（月）
今日はお休み。友だちの家でアカデミー賞を観賞しつつ、ふみふみ（友だちの赤ちゃん）と遊ぶ。

『ディパーテッド』が作品賞を受賞。ということで、早速映画館で鑑賞。夜はツキイチお食事会で台湾料理。この水餃子が好きなんだな。それにしても、お休みの日はつつい食べすぎてしまう……。

●2月27日（火）

広告原稿の校正、団体チケット購入者への案内、チケットクラブの電話対応など、日々の業務にいそむ一日。

●3月1日（木）

北九州芸術劇場プロデュースの舞台『地獄八景：浮世百景』の初日。上方落語を元にしてあるだけあって、笑い満載、スピード感があっておもしろい!! 会場には常に笑いが巻き起こり、お客さまの反応もすこくよく、無事に初日が終了。



*6 『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』:
原作=リリー・フランキー 脚本=蓬萊竜太(モダンスイマーズ) 演出=G2/出演=萩原聖人、加賀まりこ、石田ひかり、林隆三ほか/07年6月29日~7月1日 北九州芸術劇場 中劇場/問い合わせ:北九州芸術劇場芸術文化情報センター ☎093-562-2655
あの涙のベストセラー『東京タワー』が、魅力的なキャストを迎えて待望の舞台化!



*5 台湾料理:
『台湾小館DAISUKI-YA 且過店』小倉北区魚町4-2-3 ☎093-531-8681 日休
且過市場のすぐそばにある、本格的な台湾料理が手ごろに楽しめる店。組屋町に本店がある。



好評発売中
シティボーイズミックス PRESENTS 「モーゴの人々」

昨年「マンドラゴラの降る沼」で、北九州芸術劇場を沸かせた三人が帰ってきます!大竹まこと・きたろう・斉木しげるが「シティボーイズ」の活動の原点として繰り広げるステージは、多彩な才能と洗練されたセンスが見事にコラボレート。お笑いの枠を超えた舞台は必見です!

- 5/19(土) 16:00
5/20(日) 14:00
- 大ホール
- 作/細川徹、シティボーイズ、中村有志
- 演出/細川徹
- 出演/大竹まこと・きたろう・斉木しげる(シティボーイズ) 中村有志、大森博史、ムロツヨシ
- S席¥6500、A席¥5500
- *当前共通



好評発売中
第37回北九州市ファミリー劇場 角笛シルエット劇場

会場いっぱい!色と光があふれる影絵人形劇。小さなお子さまもご家族やお友達と一緒に楽しんでいただけます!

- 5/22(火)若松市民会館
- 5/23(水)八幡市民会館
- 5/24(木)~26(土)北九州芸術劇場大ホール
- 5/28(月)門司市民会館
- 5/29(火)戸畑市民会館(ウェルとはた内)
- *いずれも10:30開演
- 親子¥1900、大人¥1200
- 子ども(3歳~中学生)¥1000
- *当日観子¥300増、大人・子ども各¥200増
- *チケット1枚につき1公演のみ有効



4/29発売
東京タワー オカンとボクと、時々、オトン



ジャンルを超えて活躍するリリー・フランキー氏による、初の自伝的長編小説「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」。原作は200万部を超えるベストセラーとなり、テレビドラマや映画などメディアを超えて多くの人の心を打った本作が、今年6月に舞台化されます!舞台ならではの「東京タワー」にぜひご期待ください!



撮影:設楽茂男

好評発売中
【提携事業】 怪談 牡丹燈籠



浪人萩原新三郎に一目惚れしたお露は、父に反対され、焦がれ死にする。盆の十三日、牡丹燈籠をさげた乳母のお米に伴われてお露が訪れる。喜んだ新三郎はお露と一夜を明かすが…。昭和49年杉村春子のために書き下ろされ文学座が初演したもので、今回は北九州初舞台となる池内淳子が初役でお米・お峰・夫人の三役に挑みます。

- 6/16(土) 13:30、18:00
- 大ホール ● 原作/三遊亭円朝
- 脚本/大西信行 ● 演出/戌井市郎
- 出演/池内淳子、前田吟、川野太郎 甲斐京子、坂口良子ほか
- SS席¥7000、S席¥5000 A席¥3000、B席¥2000*当前共通

5/13日発売
平成19年度公共ホール 演劇製作ネットワークワーク 「いとこ同志」

ある異性の「いとこ同志」をめぐる、信頼と冒険の物語。登場人物は2組のいとこ。いとこ同士の結婚の現実と歴史的事実。不安の中で揺れ動く若い二人。長い時間を共に過ごしてきた年配の二人。失われゆく夜汽車の客車の中で繰り広げられる会話は、過去と現在、未来を縦横に横切り私たちを非日常の世界に誘います。約2年ぶりの舞台となる佐野史郎と渡辺美佐子の初共演にご期待ください。

- 7/14(土) 13:00、7/15(日) 13:00
- 7/16(祝) 13:00
- 中劇場
- 作・演出/坂手洋二
- 出演/渡辺美佐子、宮本裕子 向井孝成、佐野史郎
- ¥5000



撮影:馬場道浩

5/20日発売
立川志の輔 独演会

テレビでもお馴染みの志の輔師匠がついに北九州芸術劇場に登場!定期公演も含め年間150本以上の落語会を開催する精力的な活動ぶり、独自の視点で現代を語り、新感覚の落語を提案し続け、常に落語界の注目を浴びています。テレビやラジオでは味わえない、志の輔師匠の生の落語を劇場で存分にお楽しみください。

- 7/22(日) 13:00~17:00
- 中劇場
- 出演/立川志の輔ほか
- ¥3500



子どもたちの劇場シリーズ2007

5/27日発売
月猫えほん音楽会 2007

満月の夜、都会の片隅に集まってきた猫たちが、月に絵本を写しながら、絵本の読み聞かせとジャズピアノの即興演奏を楽しみます!絵本とジャズのステキなセッションで、子どもおともも楽しめる月猫えほん音楽会が今年も登場します!

- 8/2(木) 14:00 ● 中劇場
- 演出/吉澤耕一
- 企画・構成/能祖将夫
- 出演/佐山雅弘(ジャズ猫) 波多雅子(白猫) 本多愛也(マイム猫) 能祖将夫(読み猫)
- 大人¥2500、子ども¥1500(5歳~中学生)
- *4歳以下入場不可



6/10日発売
【提携事業】 ひとみ座 ひよっこりょうたん島

64年から5年間にわたってNHKで放送された人気人形劇「ひよっこりょうたん島」が帰ってきます。ドンガバチョやトラヒゲ、サンデー先生など、愉快なキャラクターが繰り広げる夢と冒険の世界は、楽しさ満点。知っている人には懐かしい、知らない人には新しい。ひよったん島へようこそ!

- 8/7(火) 11:00・14:00・18:00
- 8/8(水) 11:00・14:00
- 中劇場
- 作/井上ひさし、山元譲久
- 演出・構成/雪正一、須田輪太郎
- 声の出演(録音使用)/ 熊倉一雄、中山千夏、楠トシ江 伊東牧子、増山江威子、江見京子ほか
- 大人¥2000
- 子ども¥1000(3歳~中学生)



6/17日発売
子供のためのシェイクスピアカンパニー 「夏の夜の夢」

子どもたちも楽しめるように、シェイクスピア作品を大胆かつリズムカクに再構成し、毎年好評を得ている「子供のためのシェイクスピア」が、この夏も北九州芸術劇場に登場します!今回も、「夏の夜の夢」を遊び心あふれるユニークな演出でお届けします。妖精と人間、男と女、日常と夢世界、一夜の楽しい恋の大騒動の結末はいかに?子どもはもちろん、大人と一緒にシェイクスピアを楽しめます!

- 8/12(日) 14:00
- 中劇場
- 作/ウィリアム・シェイクスピア
- 脚本・演出/山崎清介
- 出演/伊沢磨紀、福井貴一、佐藤誓 山口雅義、戸谷昌弘ほか
- 大人¥3500
- 子ども¥2000(小~中学生)



【創造事業】 合唱物語 「わたしの青い鳥2007」

- 7/8(日) 15:00
- 中劇場
- 原作/メーテルリンク「青い鳥」
- 作曲/長生淳
- 構成・作詞・ナレーション/能祖将夫
- 指揮/植本英一
- 合唱/ワークショップを受けた市民のみなさん
- ソプラノ/石原ノ、大森智子
- ピアノ/白石光隆
- 大人¥1500
- 子ども¥1000(3歳~中学生)



撮影:藤本彦

5/13日発売
金徳洙*芸道50周年 日韓文化交流25周年* ~鼓魂、天壤を翔る~

韓国が世界に誇る超絶打楽器集団「サムルノリ」北九州公演決定。伝統打楽器(チャング、ブク、ケンガリ、チン)の高度なアンサンブルは「神がかりの音」とも称され、常に世界の音楽シーンに強い衝撃と感動を与え続けています。「サムルノリ」創始者であり国民的音楽家の金徳洙(きむどくす)の叩き出す至善の極みとも言うべきチャングの音と、心を注ぎ育て上げた気鋭のサムルノリ達との演奏にご期待ください。

- 7/19(木) 15:00 ● 中劇場
- 出演/金徳洙サムルノリ
- ¥3500



撮影:Takashi KATO

6/3日発売
【提携事業】 松竹大歌舞伎 「二代目中村錦之助 襲名披露」公演

- 9/6(木) 昼の部 13:00 夜の部 17:30
- 大ホール
- 出演/ 中村錦之助 中村梅玉 中村東蔵 中村詩蔵 尾上松緑ほか
- 正札附根元草摺 二代目中村錦之助襲名披露「口上」 番町皿屋敷 戻鶯色相扇
- SS席¥12000、S席¥10000 A席¥7000、B席¥4000
- *当前共通・但し前売終了の場合は当日券なし



■メールマガジン配信中! 詳しくはコチラまで ▶<http://www.kitakyushu-performingartscenter.or.jp>
■北九州芸術劇場チケットクラブ会員募集中 ▶お問い合わせは Tel.(093) 562-8435 (平日10:00~18:00、土日祝休)

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1番1号-11 リバーウォーク北九州5F 北九州芸術劇場 芸術文化情報センター-Tel.093-562-2655

■特に表記のないものは、全席指定・未就学児入場不可・当日¥500増です。■公演日程・内容・時間・料金など変更になる場合がございます。●万が一チケットが売り切れの場合はご了承ください。チケットのお求めはお早め!! ●公演時に劇場ロビーでリバーウォーク北九州駐車場の割引駐車券を販売します。●10名様以上のグループ観劇受付中(宣伝営業課 TEL093-562-2520) ●託児あり/有料(要予約フリーダイヤル0120-8000-20 TEL093-882-5063)

あしたを、ちがう「まいにち」に。 TOTO

本社 / 〒802-8601 北九州市小倉北区中島2-1-1
TOTOお客様相談室 ☎0120-03-1010
(受付時間)
平日 / 9:00~18:00 土・日・祝日 / 10:00~18:00
(夏期休暇、年末年始を除く)
(ホームページ) <http://www.toto.co.jp/>

「ひびきコンテナターミナル」 直背後用地分譲中



- 標準価格 19,800円/m²
- 用途地域 準工業地域(臨港地区・商港区)
- 分譲対象者 港湾物流施設を建設・運営する者

明日をひらく海と陸のパイオニア
ひびき灘開発株式会社
北九州市出資第3セクター
〒808-0024 北九州市若松区浜町1-18-1
TEL093-771-6132 FAX093-771-0043

地域とともに暮らして、地域とともに暮らして。

賑わい街づくり
応援企業

時代が求める技術、喜ばれる製品を、
人に、社会に提供していきます。



YASKAWA

株式会社 安川電機

〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石2-1 TEL(093)645-8801
<http://www.yaskawa.co.jp>

TITANIUM DREAM



東邦チタニウム株式会社

— 本社・工場 —

〒253-8510 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎三丁目3番5号
TEL 0467-87-2830 FAX 0467-83-8411

— 北九州工場臨時建設室 —

〒805-0058 福岡県北九州市八幡東区前田西洞岡2-3
TEL 093-663-1483 FAX 093-661-7012

*アンケート

『雲のうえ』は、刻々と変わりゆく北九州市の「いま」を、毎号ひとつのテーマに沿って描き出す情報誌です。3号へのご感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望、ご提案を、綴じ込みはがきでお寄せください。抽選で33名の方に、以下のプレゼントをお贈りいたします。2007年7月31日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。

A: 北九州—東京羽田間ペア往復航空券目録
(株式会社スターフライヤー) ⇨1名様



B: 1/200モデルプレーン
(株式会社スターフライヤー) ⇨3名様

C: ホテルペア宿泊券(門司港ホテル・リーガロイヤルホテル小倉・東京第一ホテル小倉・ホテルニュータガワ・北九州八幡ロイヤルホテル・ホテルクラウンパレス北九州・千草ホテル) ⇨各1名様 *ご希望のホテル名をお書きください。



D: ペアフリーパス券(株式会社スペースワールド) ⇨2名様

E: とんぼ玉携帯ストラップ(九州民芸村) ⇨5名様



F: 清酒『天心・風の吟(大吟醸)』720ml(倉松酒販株式会社) ⇨5名様

G: シャボン玉EMギフト(シャボン玉石けん株式会社) ⇨5名様



H: 且過市場特製
手ぬぐい
(且過市場事務所) ⇨5名様

『雲のうえ』編集委員会
牧野伊三夫
有山達也
大谷道子
中原蒼二(プロデュース)
編集・発行
北九州市にぎわいづくり懇話会
☎803-8501
福岡県北九州市小倉北区城内1番1号
☎093-582-3636
(北九州市企画政策室にぎわいづくり企画課内)
制作統括・印刷
株式会社 センリンプリンテックス



協力
北九州芸術劇場
株式会社朝日広告社
北九州市のみなさま
北九州市で働くみなさま

*バックナンバー

『雲のうえ』1 ※在庫切れ
特集: 屏のない酒場へ、/ エッセイ: 「半島と魔城と雲と」 平出隆 / 「劇場人。」 第1回 ほか

『雲のうえ』2
特集: おーい、市場!
/ 味の覚え書き: 「鬚の端から尾の先まで、鯨は余すところなく。」
/ 「劇場人。」 第2回 ほか



2号の送付ご希望の方は、お名前、ご住所、連絡先の電話番号を明記し、切手200円分を同封のうえ下記までお送りください。なお、送付はおひとりさま1冊とし、予定数に達しましたら終了させていただきますのでご了承ください。

☎803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号
北九州市役所企画政策室
にぎわいづくり企画課「雲のうえ」送付係

↓1ページより続く
* 中学1年のとき父の転勤で福島へ。その後仙台、東京、京都と進学のたびに移動。就職は福岡、沖縄へ行き、やっと北九州に戻ってきた。着心地のよい服にやっと思えることができたという感じだ。
(八幡西区・42歳会社員)
* 昭和40年代のはじめ、八幡より「鉄の民族大移動」で千葉の君津へ引っ越ししました。同じ境遇の友人と酒を酌み交わすと、北九州時代の話題が出てきた。この時代のことを取り上げていただけたらいいな、と夢を描いています。
(大分県由布市・55歳自営業)

* 市内各地に配冊されているかみえるが、偏り感あり。自己満足にならないこと。この冊子が全国区になることで市の大きなPRになることは必然。血税を使って冊子を発行するだけでは何にもならない。波及効果をしつかり見届けてほしい。辛口の意見も聞くこと。永く続くことを祈ります。
(小倉南区・65歳)
* 小倉っ子の私が茨城県に転勤してはや5年。住んでいたあのころを思い出しました。離れてみて本当に北九州人のあたたかさがよくわかりました。
(茨城県・41歳主婦)
* この本を読んで、「本当は何も変わっていないのかもしれない」と思っていました。故郷を訪ねるたびに「変わったしまった」と嘆いている自分、実はいざばん変わってしまったのかも知れません。
(山口県山陽小野田市・32歳)

* お芝居が好きなので、市の芝居作りに取り組み姿勢にも感銘を受けています。がんばってください。
(東京都杉並区・34歳会社員)
* このような行政の出版物をこれまで目にしたことがなく、驚いておられます。市、ならびに制作に関わっておられる方々の並々ならぬ誠意を感じます。幼年の2年間を佐賀県に過ごして、北九州にも父に連れられて出かけたことがあります。貴誌を拝見して懐かしさ、訪れたい思いに駆られました。
(大阪市・49歳)
* お祭りの特集があるとうれしいです。
(京都市・25歳大学職員)
* 7月に戸畑で挙式します。北九州は彼が高校時代までを過ごした地。今日も打ち合わせに向かうところですよ。早朝の便なので乗ったらすぐ寝ようと思いましたが、「雲のうえ」を読んでわくわくして眠れませんでした。私にとっても、これから北九州は思いの地になります。活気ある街づくりをお願いします。
(東京都板橋区・25歳会社員)

次号予告

(2007年7月25日発行予定)

次号、書名が変わる
(かもしれない)。
(かもしれない)。

夏が来れば、風が誘う。気の向くままに舵を取る。すべてを脱ぎ捨て、「旅」に出ます。近くて遠い、あの場所へ。



シングルライフをクリエイトする ORIENT BLD.GROUP

所有戸数・企業価値経営 日本一グループ企業

独立系において(開発中含む)

平成18年度集計による



CLUB ORIENT TOWER 博多 No.72



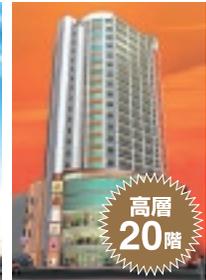
ORIENT TRUST TOWER No.71



CLUB ORIENT TOWER 博多 No.70



ORIENT BLD. No.65 CROSSING TOWER



ORIENT CAPITAL TOWER No.63



オリエントビル札幌 No.80



オリエントビル京都 No.79



ANNEX TOWER オリエントビル広島 No.77



TWIN TOWER オリエントビル広島 No.76



BENEFIT 21 HAKATA No.67



GUARANTEE 21 HAKATA No.66



No.60 V-TOWER 天神



No.82 TOWERS AOMORI 4F



No.57 PROJECT Tokyo 浜島島



PROJECT2100 博多駅前



No.51 PROJECT2100 日赤通り



No.54 Wes-PROJECT 博多駅前



No.47 PROJECT2100 小倉駅



No.48 PROJECT2100 博多



No.55 PROJECT 博多



No.56 PROJECT Tokyo 目黒道



No.56 PROJECT Tokyo 目黒道



V-PROJECT2100 天神



J-PROJECT 南小倉駅



LANDMARK2100 博多駅



RENAISSANCE2100 天神



CONTINENTAL SECOND STAGE 博多



No.52 Mark-Springs Tokyo



G-SIDE ANNEX



PROJECT2100



TERMINAL PROJECT2100 博多駅



INTER CONTINENTAL 博多



LA-REGENCY 戸畑



SUPERS PROJECT2100 博多



G-PROJECT2100 天神



HARBOR VIEW 戸畑

開発中也含む

ORIENT BLD.GROUP

- ORIENT PROPERTY Co.,Ltd.
- ORIENT Facility Co.,Ltd.
- C.Y.Holding Co.,Ltd.
- ART DECO Co.,Ltd.
- ORIENT BLD.T. Co.,Ltd.
- Magnoria Co.,Ltd.
- W INVEST. Co.,Ltd.

- AGENDA21 Co.,Ltd.
- PUZUMARI Co.,Ltd.
- C.Y.Trust Co.,Ltd.
- PLAGE INVESTMENT Co.,Ltd.
- ESCADA CAPITAL Co.,Ltd.
- IE CAPITAL Co.,Ltd.
- ORIENT INTERNATIONAL HONG KONG Co.,Ltd.
- ORIENT INTERNATIONAL NEW YORK Co.,Ltd.
- ORIENT INTERNATIONAL DEVELOPMENT Co.,Ltd.

- OEC CAPITAL Co.,Ltd.
- ORIENT BLD. FUND Co.,Ltd.
- ORIENT BLD. DEVELOPMENT Co.,Ltd.
- FRANKFOR INVEST Co.,Ltd.
- ORIENT TRUST MEGURO Co.,Ltd.
- CY PARTNERS Co.,Ltd.
- CY INVEST Co.,Ltd.
- BF PARTNERS Co.,Ltd.
- LIFE CONVENIENCE Co.,Ltd.

- CY MANAGEMENT No.1 Co.,Ltd.
- CY MANAGEMENT No.2 Co.,Ltd.
- CY MANAGEMENT No.3 Co.,Ltd.
- CY MANAGEMENT No.4 Co.,Ltd.
- CY MANAGEMENT No.5 Co.,Ltd.
- CY MANAGEMENT No.6 Co.,Ltd.
- CY MANAGEMENT No.7 Co.,Ltd.

オリエントキャピタル株式会社
ORIENT CAPITAL CO.,LTD

【本 社】〒812-0021 福岡市博多区築港本町3-24 ジープロジェクト天神 No.31 1F

<http://www.orient-gr.co.jp> info@orient-gr.co.jp